JNDC活動の発展を願う

平田実穂（原研）

人間は，ときには誤りをおかしながら足をのばして，つまずきながら前進する。すべって後ずさりするかもしれないが，しかしそれはほんの半歩だけで，けっして完全に一歩後退することはない。もしも一歩が踏み出されていないならば，もしもつまずきながらも前進しようとする意欲が生きていないならば，爆弾だって落ちはしないであろう。‥‥それは前進の一歩が踏み出されていることの証拠であるからだ。 ―スタインベック「怒りの葡萄」―

JNDCは学会と原研の特別委員会として出発していらい，いくつかの試錬の時期を経験してきていると思うが，しかし絶えず前進の精神をもって進んできていると信じたい。その活動も委員長を初めとする各会員の努力によって一応軌道にのっているような状態にみえる。しかし，その中には後退する危険をはらんでいるかも知れない。各会員はさらにこゝで前進することを考えねばならないと思う。それが私達の核物理，中性子物理，そして炉物理，炉設計の進歩と，多くの研究者，技術者のプラスになることを確かめながら常に前進して行かねばならない。しかし，言葉の上での前進はたいへん容易であるけれども，現実の方法としてはどうしたらよいのであろうか。会員の工夫と協力にたよらなければならないと思うけれども，同時にJNDCを取り巻く環境の改善をはかることも大事であろう。具体的にいうならば，国際的な交流，連絡の内容の改善，遮蔽，核融合，核査察といった分野からの要求の消化（これについては要求内容の検討を行うことが第1段階であろう），一見，軌道化してみえる炉設計側からの要求の消化方法の改善，というインターデプシナリイ的な問題をどう扱うかを現実的に慎重に，しかし視野はひろくもって改善をはかる必要があるように思われる。その努力の試ろみによって，核データに関してJNDCが真に我が国における中心となることであろう。予算やマンパワーの要求も環境の改善とからみながら前進化を期待できるであろう。それが多くの研究者や技術者にとってプラスとなるべき内容となるためには，アインスタインの言葉を借りるならば，打算的な政治的悧口さより，正義と真理への情熱的な意志が状態の改善に多くの貢献をするという。会員のみんなで共に協力し，努力したいと願っている。